

7 今後のすすめ方

今後、香川地区での整備を推進していく上では県やＪＲなどの各関連機関をはじめ、事業主管、地権者や地元居住者との調整・合意など、解決すべき事項を多く抱えている。

ここでは、今後、事業を進めていく上で必要と考えられる事項を以下に整理しておく。

事業の推進

整備計画の作成

当基本計画では、地元検討会から出された提言をもとに、全市的な位置づけなども踏まえながら再度検討を行い、まちづくりの大枠の方針を設定した。次のステップとしては、香川駅周辺地区を対象を絞り込み、各関連機関や地権者、地元住民との協議・調整を行いながら、整備計画を策定する必要がある。

整備計画には、より具体的な整備方針（計画図）や整備手法や整備時期等を踏まえた事業化計画を盛り込んでいく。

関係各者との協議調整

整備計画を策定するにあたっては、県やＪＲなどの関連各者で構成する研究会等により効率的に協議調整を行い、合意形成を図っていく。

実施計画での事業推進

ちがさき・さわやかプラン基本計画に位置づけられているものについては、社会情勢や経済状況を勘案しながら、段階的に実施計画に盛り込み、順次、事業の推進を目指す。

また、目標年後においても地域ニーズや費用対効果等を考慮しつつ、段階的に次期基本計画に位置づけ、実施計画に盛り込んでいく。

地元住民との協働

計画・設計時における住民参加

今後、より具体的に計画や設計を行っていく段階において、可能な範囲で住民が参加できる仕組みを確立し、官民協働によるまちづくりを展開していく。

工事・管理時における住民参加

散歩道の案内サインや公園の清掃・管理など、住民の協力を得ることによりすすめられる事業も少なくない。できる限り情報を提供し、可能な範囲で住民の力を借りたまちづくりを展開していく。

まちづくりシンポジウムの開催

まちづくりの各節目においてシンポジウムを開催し、できるだけ多くの人に興味・関心をもってもらおうと同時に、まちづくりの協働者として幅広く意見を聞く機会を設けることを目指す。

地元窓口との情報交換

香川地区においては、まちづくりの提言を作成した地元検討会を引き継ぐ形で、香川まちづくり促進会が組織化されている。この地元窓口との積極的な情報交換を行い、円滑な事業の推進を目指す。

庁内体制の確立

専門窓口の設置

今後、まちづくりを展開していくにあたっては、行政における様々な関連施策や事業との調整および関係各課との情報交換を積極的に行っていくとともに、地元・事業者への総合窓口となる部署の設置を検討する。

庁内連絡調整会議の創設

まちづくりを展開するにあたっては、庁内の様々な関連施策や事業との調整が必要となる。これらを調整する機関として庁内連絡調整会議を創設し、横断的な調整システムとして活用していく。